

令和3年度「1.17は忘れない」地域防災訓練を実施します



1 目 的

この訓練は、兵庫県が定める「ひょうご防災減災推進条例」に基づき、尼崎市と尼崎市教育委員会が主催するもので、阪神・淡路大震災の経験と教訓を次世代へと継承し、次の大災害への備えや対策の充実を図るため、毎年、「ひょうご安全の日」である1月17日を中心に実施しているものです。

2 実施日時

1月17日（月）午後1時50分から3時30分まで

※実施日時は会場によって異なります。

3 実施場所

メイン会場 尼崎市立成文小学校（尼崎市大島2丁目33番1号）

地区会場・その他会場 別紙参照

4 訓練想定災害

上町断層帯地震（マグニチュード7.5 震度7）を想定

5 訓練参加者

学校関係者（児童生徒、教職員、PTA）、地域住民 など

6 訓練の特徴 ※訓練内容は会場によって異なります

(1) 感染拡大を防ぐために

各会場ともに原則無観客での開催とし、訓練時間は2時間以内とします。また、参加者を含む訓練関係者の数は、訓練実施に必要な最小限の人数とします。

(2) 避難所運営訓練

地震発生から三日後を想定し、避難住民による自治的な避難所運営組織の結成、避難所での生活ルールづくり等、避難所内で起こる様々な事案への対処など、ワークショップ形式の訓練を行います。

(3) 要配慮者支援訓練

指定避難場所での要配慮者支援を想定し、パーテーション、ダンボールベッド等を用いて、要配慮者の状況を踏まえた「福祉スペース」の設営訓練や、傷病者の搬送法等の応急救護訓練を行います。

(4) 在宅避難者支援活動訓練

在宅避難する要配慮者の安否確認、訪問支援など、民生児童委員等と連携した実動形式の訓練を行います。

7 その他

訓練当日の現地取材は、メイン会場である「成文小学校」に限らせていただきます。取材をご希望の場合、1月14日(金)午後5時までに電話で、災害対策課(担当:金谷)までご連絡ください。

以上

令和3年度「1. 17は忘れない」地域防災訓練実施計画（案）

1 目的

この訓練は、兵庫県が定める「ひょうご防災減災推進条例」（平成17年3月28日条例第42号）に基づき、減災社会の構築を目指して、阪神・淡路大震災の経験と教訓を次世代へと継承し、次の大災害への備えや対策の充実を図るため、地域で災害に対処するための能力（以下「地域防災力」という。）の向上に資することを目的とする。

2 実施日

(1) メイン会場及び地区会場

令和4年1月17日（月）各校の5限目開始時刻から6限目終了時刻まで

(2) その他会場

令和4年の減災月間中（1月中）

3 訓練会場

(1) メイン会場

大庄地区：成文小学校

(2) 地区会場

中央地区：難波小学校

小田地区：長洲小学校

立花地区：立花西小学校

武庫地区：武庫南小学校

園田地区：園田小学校

(3) その他会場

市立小学校（メイン会場、地区会場を除く。）、市立中学校及び特別支援学校

4 主催

尼崎市、尼崎市教育委員会

5 訓練想定災害

「上町断層帯地震」

上町断層帯を震源とするマグニチュード7.5の内陸型断層地震。尼崎市では震度7を記録し、道路、橋梁、鉄道等の交通インフラ及び電気、ガス、水道等のライフラインに壊滅的な被害が生じる。

市内の建物は、地震の揺れにより約 61,000 棟が全壊し、火災により約 3,000 棟が焼失。建物の倒壊による死傷者は約 5,200 人にのぼる。

※ 被害想定は、「兵庫県地震被害想定調査」の結果（昼間 12 時）による。

6 訓練概要

(1) メイン会場で行う訓練

ア 避難所運営訓練

地震発生から三日後を想定し、避難住民による自治的な避難所運営組織の結成、避難所での生活ルールづくり、避難所内で起こる様々な事案への対処など、ワークショップ形式の訓練を行う。

イ 応急救護等災害対応訓練

救助・救出活動や応急手当法等、災害時に必要となる知識・技術の習得に資する体験型訓練を行う。

ウ 要配慮者支援訓練

在宅避難する要配慮者の安否確認、訪問支援など、民生児童委員等と連携した実動形式の訓練を行う。

(2) 地区会場で行う訓練

避難所運営訓練を中心に、各地区の実情に応じた特色ある訓練を行う。

(3) その他会場で行う訓練

各校にて定められた「災害対応マニュアル」、「避難所運営マニュアル」及び「避難所運営組織マニュアル」の内容を確認する特色ある訓練とする。

7 その他

この実施計画によるほか、訓練の実施に必要な事項は、別途協議のうえ決定する。

以 上

メイン会場 訓練進行表

1350 1355 1400 1405 1410 1415 1420 1425 1430 1435 1440 1445 1450 1455 1500 1505 1510 1515 1520 1525 1530

<p>訓練①</p> <p>地震・津波 避難訓練</p> <p>【教室・運動場】</p>	<p>成文小学校 教職員(30) 児童(240)</p>	<p>【避難訓練】45分</p> <ul style="list-style-type: none"> 成文小学校安全部の計画に基づく訓練 成文小学校の児童は、教職員の指示に基づき次の内容に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> 黙祷 避難誘導・安否確認訓練（地震対応） 避難誘導・安否確認訓練（津波対応） 集団下校訓練 訓練終了後、教職員は他の訓練を見学する。 	<p>【開錠訓練】訓練終了後(関係者のみ)</p> <p>訓練終了後、成文小学校の門扉等の鍵を保有する地域住民と、教頭により、進入経路や開錠方法等を確認するとともに、学校施設使用に関する意見交換などを行う。</p>				
<p>訓練②</p> <p>避難所運営訓練</p> <p>【体育館】 舞台側半面</p>	<p>地域住民(24) 高校生(4) 大学生(4)</p> <p>市地域支援部</p>	<p>【オリエンテーション】15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者に対し、訓練の趣旨、実施要領等の説明を行う。 	<p>訓練準備</p>	<p>【避難所運営体験ワークショップ】60分</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所生活の3日目を想定し、避難所運営に関するワークショップを行う。 「避難所運営組織」を想定したグループをつくる。(8名×4グループ) 各グループには、避難所での生活を想定した様々な状況を付与する。 各グループのメンバーは、付与された状況について、運営組織として対応策を検討し、判断する。 <p>〔状況付与モデル〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 体育館にベットの猫を連れ込んでいる人がいます。私の息子は猫アレルギーなのですが、何とかできないでしょうか？ 認知症の母とともに避難してきました。集団生活では他の方に迷惑をかけてしまいます、個室を用意していただく訳にはいかないでしょうか？ 	<p>【振り返りタイム】15分</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内で検討された結果や、メンバーの意見等を発表し、参加者の気づきを促す。 	<p>あいさつ(学校長)</p>	
<p>訓練③</p> <p>要配慮者支援訓練</p> <p>【南校舎】 ランチルーム</p>	<p>地域住民(26) 消防団(6) 高校生(5) 大学生(5) 障害福祉事業所(5)</p> <p>市避難部 市保健援護部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難者(地域住民)主体の避難所運営に関する映像教材を視聴する。 映像視聴後、訓練②参加者は訓練準備を行う。 	<p>移動・訓練準備</p>	<p>【搬送法】20分</p> <ul style="list-style-type: none"> 応急手当を終えた傷病者を搬送したり、危険な場所にいる傷病者を安全な場所に移動させる場合の方法等についての訓練を行う。 	<p>【福祉スペース設置訓練】40分</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定避難場所での要配慮者支援を想定し、「福祉スペース」の設営、応急救護等の訓練を行う。 パーテーション、ダンボールベッド等を用いて、要配慮者の状況を踏まえた環境整備を行う。 必要物資を検討し、物資要請リストを作成する。 要配慮者の状況把握や健康調査、福祉避難所への移送等に関する手順確認を行う。 	<p>【振り返りタイム】15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者は、訓練内容を振り返り、避難所で必要な要配慮者への支援活動について、互いの意見交換を行う。 終了後、体育館へ移動する。 	<p>全体集合</p>
<p>訓練④</p> <p>在宅避難者支援活動訓練</p> <p>【南校舎・校外】 ランチルーム</p>	<p>民生児童委員(4) 高校生(4) 大学生(4)</p> <p>市保健援護部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 映像視聴後、訓練③及び訓練④の参加者は、ランチルームへ移動し、訓練準備を行う。 	<p>移動・訓練準備</p>	<p>【在宅避難者支援活動訓練】60分</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅避難者の訪問支援を想定した、実動訓練を行う。 在宅避難者は、地区内の避難行動要援護者〇名程度とする。 地区の民生児童委員、高校生、大学生による支援チームを編成する(3名×4チーム) 保健援護部は、在宅避難者の情報を支援チームに提供する。 支援チームは、在宅避難者宅を訪問し、安否確認を行うとともに救援物資を届ける。 	<p>【振り返りタイム】15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者は、訓練内容を振り返り、大規模災害時に必要な在宅避難者の支援活動について、互いの意見交換を行う。 終了後、体育館へ移動する。 	<p>講評(尼崎市長)</p>	
<p>1350 1355 1400 1405 1410 1415 1420 1425 1430 1435 1440 1445 1450 1455 1500 1505 1510 1515 1520 1525 1530</p>							



あいさつ(学校長)・全体集合・講評(尼崎市長)